

小論文

(200点 90分)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 問題冊子は1冊4ページ、解答冊子は1冊3ページです。
3. 試験開始後、問題冊子や解答冊子に乱丁・落丁がある場合は、直ちに申し出てください。
4. 受験番号と氏名の記入欄は、解答冊子の表紙と各ページにあります。
5. マス目のある解答欄への記述に関しては、記号数字なども1文字分として当ててください。

例)

1	.	0	%
---	---	---	---

6. 試験終了後、解答冊子を回収するので、指示があるまで退席しないでください。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

問題 1

次の英文を読み、問 1 から問 3 に答えなさい。

Everybody sleeps. In fact, almost one third of our lives is spent sleeping. Surprisingly, scientists still do not fully understand why we sleep, or the mechanisms and functions of the different stages of sleep. ①However, we do know that sleep is necessary for maintaining both our physical and mental health. Sleep allows the body and brain to repair damage, and clear waste products that have built up during the hours we are awake. Sleep also supports the formation of memories, which helps us learn. Sleep is also involved in regulating hormones that affect appetite, metabolism, and our ability to fight infection.

In 2003, the Japanese Ministry of Health Labour and Welfare established "Sleep Guidelines for Health Promotion" to improve sleep quality and quantity across different age groups. These guidelines, revised in 2014, consist of twelve messages emphasizing the positive impact of sleep on physical and mental health. ②However, in a 2021 survey conducted by the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD), it was found that Japanese sleep an average of only seven hours and 22 minutes a night, the shortest among the 33 countries surveyed. Other surveys have also confirmed that Japanese people are not getting sufficient sleep. This led to the ministry publishing more detailed sleep guidelines in 2023 including recommended amounts of sleep for different age groups.

③Greater efforts are required to help educate people from a young age on the importance of sleep. Since 2024, the Japanese Ministry of Health Labour and Welfare has been collaborating with the Pokemon Company to gather sleep statistics and promote healthy sleep habits through the "Pokemon Sleep" smartphone game. In June 2025, the ministry announced popular Pokemon characters Pikachu and Snorlax¹⁾ as sleep ambassadors to encourage people, especially children, to develop better sleep habits.

¹⁾Snorlax カビゴン

問1 下線部①、下線部③をそれぞれ日本語にきなさい。 (15 点×2)

問2 Read the underlined sentence ②. What do you think is the reason for this result? Write your answer in one or two English sentences. You should write at least 20 words in total. (解答欄の範囲内に、1 文か 2 文、計 20 語以上の英文を作成すること) (15 点)

問3 本文の内容に基づき、十分な睡眠をとることによる健康上の利点について、あなたが考えることを日本語 140 字以上 160 字以内で述べなさい。 (15 点)

問題2

問1

図1は全国と新潟県における小学生および中学生の裸眼視力1.0未満の者の割合の推移を示しています。下記の①から⑤の記述について、図1から読み取れる内容として正しい場合は「正」に、誤っている場合は「誤」に○印をつけなさい。(6点×5)

- ① 新潟県の小学生における裸眼視力1.0未満の者の割合は、令和6年に初めて全国の小学生における裸眼視力1.0未満の者の割合を上回った。
- ② 新潟県の中学生における裸眼視力1.0未満の者の割合が最も大きい年では、全国の中学生における裸眼視力1.0未満の者の割合も最も大きい。
- ③ 新潟県の中学生における裸眼視力1.0未満の者の割合について、最も大きい年の割合は、最も小さい年の割合の1.3倍以上である。
- ④ 平成30年から令和4年までの、全国と新潟県の小学生における裸眼視力1.0未満の者の割合の差は、年々縮まっている。
- ⑤ 平成30年から令和4年までの、全国と新潟県の中学生における裸眼視力1.0未満の者の割合の平均値は、全国の中学生が58.5%で、新潟県の中学生が62.1%である。

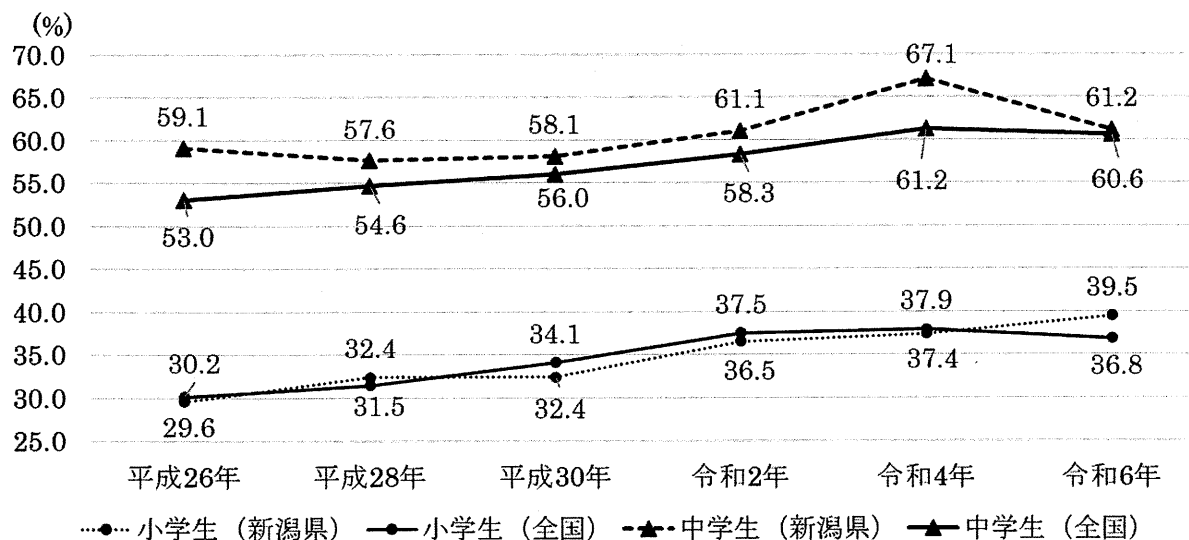


図1 小学生および中学生の裸眼視力1.0未満の者の割合 (%) (平成26年～令和6年)

(出典 文部科学省「学校保健統計調査」平成26年度～令和6年度統計表より引用、一部改変)

問2

表1は全国における小学生・中学生・高校生の裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移を男女別に示しています。表1が示すデータの特徴を1つ挙げ、さらに、その要因としてあなたが考えることを100字以上140字以内で述べなさい。(40点)

表1 小学生・中学生・高校生の裸眼視力 1.0 未満の者の割合 (%) (男女別) (令和元年～令和6年)

		(%)					
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
小学生	男	31.3	34.6	34.1	35.1	35.4	34.8
	女	38.0	40.6	39.8	40.8	40.3	38.9
中学生	男	52.9	54.3	56.3	58.9	57.9	57.3
	女	62.2	62.4	65.2	63.7	64.1	64.1
高校生	男	65.4	59.9	70.1	70.8	65.5	70.0
	女	70.0	66.5	71.6	72.3	70.1	72.3

(出典 文部科学省「学校保健統計調査」令和元年度～令和6年度統計表より引用、一部改変)

問題3

次の文章を読み、下線部の筆者の意見について、本文の趣旨を踏まえ、あなたが考えることを400字以内で述べなさい。(70点)

英国の著述家C・P・スノーは、「文系と理系の分断」を指摘した先駆者と言われる。1959年に行った講演で、西欧社会が「文学的知識人」と「科学者」の二極に分かれつつあり、互いに理解しようとしないと嘆いた。前者は熱力学の基礎を知らず、後者はシェークスピア作品を読まないと述べて論争になった。

スノー自身は大学で物理化学を学び、小説も書いた文理融合の人だった。興味深いのは、英国で分断が進んだ理由に「教育の極端な専門化」を挙げたことだ。唯一の解決策は教育を再考することだと、講演で力説した。

日本でも、「文系・理系の壁」が言われて久しい。特に不合理に感じるのは、大学受験に合わせたコース分けだ。多くは高2からクラスが分かれるため、高1で岐路に立たされる。自分がどの分野に向くのが明確な16歳は少ないだろう。

大学入学共通テストでは、文系・理系にかかわらず役立つという「情報I」が加わった。新学習指導要領に対応した新たな科目で、データ分析やプログラミング、情報モラルなどを扱う。

地球温暖化や感染症対策、エネルギー問題。グローバル化とIT化が進む中、学問の垣根を越えた研究分野は増えている。文理融合が求められる今日、未来の自分像が浮かぶ柔軟な進路選びであってほしい。

(出典 朝日新聞『天声人語』2025年1月18日朝刊 一部改変)